

バングラデシュ南部避難民救援事業 ERU 第 2 班技術要員からの報告
臨床工学技士 石原健志

2017 年 8 月 25 日の武力衝突以降、ミャンマー北部ラカイン州から避難民が急増し、11 月には 62 万人以上が隣国のバングラデシュに避難、国連高等難民弁務官事務所がレベル 3 に認定する人道危機となっています。同地区には今回の武力衝突以前にすでに 20 万人の避難民が生活しており、さらに地元のバングラデシュ住民 20 万人と合わせると約 100 万人の医療ニーズがあります。

現在、日赤チームはコックスバザールにあるバングラデシュ国内で最大の避難民キャンプで、1 万人以上の避難民の診察を巡回診療で行っています。しかし、足場の悪い避難民キャンプでの徒歩移動はとても大変で、持参できる医薬品などの医療資器材には限界があります。そこで更なる医療支援を行うため、第 2 班の活動期間中に日赤仮設診療所の建設が決定され、私はその建設を担当するため急遽、2017 年 11 月 14 日から 11 月 30 日までの約半月間、第 2 班のシニア技術要員として活動してきました。11 月 15 日から開始した建設作業は困難の連続で、日々工事計画の変更を余儀なくされましたが、何とか第 2 班の帰国までに約 90%の建設を終え、無事第 3 班に引き渡すことができました。

バングラデシュは潜在的なコレラの流行地域で、現在 WHO が中心となって避難民に大規模なコレラワクチンキャンペーンを行っています。今回建設した日赤仮設診療所は下痢性疾患が流行した場合にも迅速に対応できるように診療所を汚染エリアと清潔エリアに分け、各エリアの周りに傾斜をつけた溝を設置、汚染エリアの床はセメントを敷くことで汚物が拡散しないように配慮して建設されています。

また、下痢性疾患が流行した時には大量の清潔な水が診療に必要となります。20 人の入院患者さんに対応するには 1 日 2 t の清潔な水が必要で、安心して診療するためには常に 3 日分 6 t の清潔な水を確保する必要があります。われわれはスウェーデン赤十字社の給水衛生チームに協力を依頼し、日赤仮設診療所の敷地内に深井戸を設置し、周辺住民用と併せて 1 日 16 トンの水をくみ上げて貯水できる設備を建設中で、6 トンをクリニック用、10 トンを周囲の住民用に供給する予定です。現在すでに深井戸の工事が始まったと報告を受けています。また深井戸が設置できるまでの間、国境なき医師団から清潔な水の提供を受ける話、スペイン赤十字社の衛生チームには簡易の手洗い場の設置を依頼、WHO には浄水装置の寄贈を受ける交渉を続けてきました。

その仮設診療所が 12 月 9 日に無事オープンし、初日は 79 人の診療を行うことができたとの現地からの報告がありました。

われわれ日赤は各国の赤十字社や NGO と協力することで、避難民の皆様にとって意義のある支援を行いたいと考えています。



整地前



整地後



レンガを敷く



コンクリート敷設 1



コンクリート敷設 2



竹製テント設営



地元業者と相談



地元業者と相談 2



フレームテント設営



配線



井戸掘削の相談



接地抵抗計で地面の抵抗を測定



全部で9棟のテントを設営



最も高いところに6トンの貯水タンクを設置



クリニック設計図